

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
熊本県教育委員会
教育長 古閑 陽一

令和2年度(2020年度)地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年 5月 8日(契約締結日)～ 令和3年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名 熊本県立天草拓心高等学校
学校長名 中村 洋介
類型 プロフェッショナル型

3 研究開発名

産業イノベーション人財の育成
～天草の魅力ある農業で持続可能な未来を拓くリーダー～

4 研究開発概要

地域が直面する社会問題に対して解決策を提案し、実行できる産業イノベーション人財の育成を目指し、令和2年度(2020年度)入学生(1年生)及び、平成31年度(2019年度)入学生(2年生)を対象に以下の取組を行った。なお、令和2年度(2020年度)3年生についても予定される内容を一部先行して実施し、研究の深化を図った。

(1) 「課題研究型学習(天拓プロジェクト)」(地域課題を題材にした学習)

令和2年度(2020年度)は、第1学年全員で科目「農業と環境」及び「科目総合実習」などの授業や長期休業期間を利用して、プロジェクト学習の手法を身に付けながら、地域理解及び課題発見に向けた学習に取り組んだ。また、第2学年全員で科目「総合実習」及び各専門教科の授業を利用して、地域資源を活用した課題解決型学習(プロジェクト学習)を実施した。

第1年次(基礎)	地域理解及び課題を発見し、解決の手法を学習・SBP*の導入
第2年次(定着)	地域資源を活用する力の育成・課題解決型学習の実践
第3年次(応用)	経営力育成プログラムの構築・学びを社会で実践

* SBP(Social Business Project)の略称であり、天草市との協働によるプロジェクトを実践する組織を形成

(2) 「職業観の育成」(天草をささえる人材を育てるための職業観育成プログラム)

令和2年度(2020年度)は、第1学年全員で科目「総合実習」及び科目「農業情報処理」などの授業を利用して外部人材による講演を実施し、職業人としての見方・考え方について理解を深めた。また、地域内外に関する様々な分野の情報収集・情報の活用方法を学習した。第2学年においては、全員で科目「総合実習」の授業を利用し、外部人材による講演等を実施し次世代農業に関する先端技術について学習した。また、フィールドワーク(現場実習含む)については、天拓プロジェクトと関連付けて、リモートによる外部人材との交流や近隣企業・農家等を訪問し、職業現場を体験的に学習することができた。

第1年次(基礎)	情報収集と活用方法を学習・就農教育の実践・職業倫理の醸成
第2年次(定着)	現場実習で課題とニーズを分析・産業先端技術の習得
第3年次(応用)	グローバルな視点での課題解決を実践・GAP認証学習

(3) 天草拓心版オーダーメイド学習評価法(AOLA)の構築

令和2年度(2020年度)は、本校独自のルーブリックを作成し、アンケート評価による生徒の意識調査を実施した。また、ポートフォリオによる学習の記録から振り返りを実施し、目標到達度の評価・確認を面談等を通して相対的に実施した。これらの評価により、生徒の個別の変容を捉えた。

授業改革推進	教職員による「授業デザイン会」及び「授業振り返り会」を実施し、主体的・対話的で深い学びによる授業を推進する。
--------	--

カリキュラム開発	プロフェッショナル型コーディネーター及び教務部との目標共有及び教科横断的な学習計画の開発を実施する。
評価システムの構築	AOLAを活用した生徒の課題に対する主体的取組と学習成果の評価を行い、生徒一人一人の変容を捉えていく。

5 教育課程の特例の活用の有無
特例の活用 無し

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会						1回					1回	
コンソーシアム会議				1回		1回				1回		
成果報告会・評価会										1回		

(2) 実績の説明

ア. コンソーシアムについて

コンソーシアムの構成については、昨年度に引き続き、2部からなる支援体制を整えた。「マザー・サークル」は、本校の取組を地域外の視点から客観的に捉え、生徒の学習状況や成果について直接的に指導・助言できる構成とした。「ローカル・サークル」は、天草地域内でテーマ毎に協働ができる構成とした。

○マザー・サークル（客観的コンソーシアム）の構成

機関名	機関の代表者名	役割等
一般社団法人未来の大人応援プロジェクト	代表 岸川 政之	学識
(株) デンソー社会ソリューション事業推進部	部長 渥美 欣也	資源活用
公立大学法人熊本県立大学環境共生学部	准教授 坂本 達昭	資源活用
熊本県商工観光労働部産業支援課産業支援班	主幹 林田 安生	資源活用
熊本県立農業大学校	校長 中村 秀朗	就農支援
熊本県天草広域本部	本部長 古森 美津代	地域創生
熊本県教育庁教育指導局高校教育課	課長 岩本 修一	運営指導

○ローカル・サークル（協働的コンソーシアム）の構成

機関名	機関の代表者名	役割等
(株) デンソー天草事業所	所長 益田 智	研究支援
イオン九州株式会社 イオン天草店	販促担当 羽衣石 純夫	販売・流通
(株) 岡村農園「ハンドメイド」	代表 井上 政哉	食品加工
(株) 光延農園	代表 光延 啓人	栽培技術
就農アドバイザー	担当 倉田 政幸	学習支援
本渡五和農業協同組合営農経済部営農課	課長 吉本 和喜	就農支援
天草畜産農業協同組合	課長 井上 美智信	学習指導
熊本農業研究センター天草農業研究所	所長 山部 秀敏	研究支援
天草広域本部天草地域振興局農業普及・振興課	課長 木庭 正光	地域創生
天草市役所経済部産業政策課	課長 植田 伸広	地域創生
天草市起業創業・中小企業支援センター長「Ama-biz」	所長 内山 隆	職業教育
天草ケーブルネットワーク株式会社メディア事業部テレビ制作課	課長 猪原 和司	情報活用
熊本県立農業大学校	農学部長 橋口 英伸	学習支援
熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課	指導主事 小田原 健	運営指導

イ. カリキュラム開発等専門家について

昨年度に引き続き、株式会社チーム天草代表取締役の西嶋隆明氏を会計年度任用職員として雇用し、週2日程度、指定校に配置した。

ウ. 地域協働学習実施支援員について

カリキュラム開発等専門家と兼任で、西嶋隆明氏を月1回程度、指定校に配置した。

エ. 運営指導委員会について

学校教育及び研究評価、研究関連の有識者6名で構成し、委員会を年間2回開催し、俯瞰的な視点で本事業の進捗、研究成果等に関して指導・助言、評価をいただいた。

○運営指導委員会の構成

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
木之内 均	熊本県教育委員、木之内農園・会長	会長／農業、学校教育
高崎 文子	国立大学法人熊本大学・准教授	副会長／学識経験者・学習評価
津留崎 恵美	株式会社コッコファーム・品質管理部門長	学識経験者・食品加工

豊田 希	有限会社マツイアンドパートナーズ・代表	運営指導・地域連携
山下 弘幸	株式会社農テラス・代表取締役	運営指導・農業経営
前田 正明	株式会社吉次園・代表取締役	運営指導・6次産業化

オ. 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・運営指導委員へ事業運営及び研究成果に関する情報を発信し、効果的な指導・助言及び評価につなげた。
- ・熊本県スーパー・ハイスクール生徒研究発表会をオンラインで実施。本県21校から255件の生徒による日頃の探究活動の成果等の特設ホームページ上で発表し、意見交換を含め、指定事業への理解促進と研究の充実を図った。
- ・コンソーシアム委員がコーディネーターとなり、SBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）学習における、三重県立南伊勢高校との協働による防災非常食プロジェクトについて、事業成果発表会を行った。
- ・熊本県高等学校教育研究会農業部会等、各種会議での情報発信と連携促進を図った。
- ・事業運営及び研究実施体制への指導・助言、研究推進を行った。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・コンソーシアム委員及び協力機関と目標を共有し、研究実施体制の維持・継続を図る。
- ・所要経費の予算申請において、学校予算で継続可能な内容を検討し、事業終了後も継続可能な事業実践を行う。
- ・事業終了後の3ヶ年計画（2022年4月～2025年3月）を作成し、コンソーシアムの見直しと成果検証を実施し、本校独自のプログラムとして継続研究を行い、情報発信と成果普及を行う。
- ・卒業後の就農支援及び起業支援を組織的に行い、地域産業イノベーション人材として求められる青年実業家としての資質・能力の育成を継続支援する。
- ・カリキュラム開発検証結果や地域課題解決の成果について、県内地域及び農業系高等学校と情報共有を行い、地域内外への成果普及や再現性の検証、生徒の効果的な変容について、高度な研究開発を継続する。

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

- ・地域資源の活用及び地域が抱える課題解決等に関して、地元天草市及び株式会社デンソーにおいて、「地域資源を活用した教育に関する協定書」を締結している。
- ・天草市と災害発生時における学校施設の避難所等利用に関する基本協定書を締結し、地域における防災型のコミュニティスクールの役割を担っている。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域理解研修			1回				1回		1回		1回	
課題発見講座				1回		1回	1回	1回				
天拓プロジェクトに係わるフィールドワーク		1回	1回	1回		1回	1回	2回	1回	1回	2回	
科目「農業と環境」におけるプロジェクト学習	前期活動・中間まとめ					後期活動・年間まとめ				発表		
科目「農業情報処理」における情報収集・活用講座			1回	1回			1回	1回	1回		1回	
天拓L a b							天草地域での探究活動と並行して実施					
GAP研修会						1回						
HACCP研修会				1回							1回	
各種講演・講習会				1回			1回		1回	1回	1回	
農業関連施設視察研修							1回					1回
研究成果発表の機会							1回		1回	1回	1回	
SBP活動			1回	1回	1回	4回	7回		1回			
経営体シミュレーション研修												1回
コンソーシアム会議				1回		2回				2回		
運営指導委員会						1回				1回		

(2) 実績の説明

○研究開発の内容や地域課題研究の内容について

<p>ア 課題研究型学習（天拓プロジェクト） (ア) 第1学年【令和2年度（2020年度）入学生】 科目「農業と環境」の授業において、野菜の栽培をテーマとした学習を通して、農業に対する科学的な見方・考え方について学習を行った。また、生育調査等を進める過程でデータの収集・調査・分析等を行いながら、科目「農業情報処理」で学習内容をまとめ、グループごとに学習発表を行った。</p>
--

食品科学科では、科目「農業と環境」において野菜の栽培を実施し、加工原料となる食材について学習した。また、科目「食品製造」により、栽培した野菜の加工実習を实践し、科目「食品化学」で食品加工のメカニズムについて学習した。

科目「総合実習」において、地域内外企業やグローバル企業及び農業関連機関（JA・県立農業大学校・行政機関など）と連携し、地域農業や他産業の現状及び地域の現状から分かる課題について学習を行った。また、科目「農業と環境」の学習内容の振り返りを行い、その中でPDCAサイクルの手法に従って協働学習に向けての準備・計画等の立案に取り組んだ。

(イ) 第2学年【平成31年度（2019年度）入学生】

科目「総合実習」において、11のグループに分かれてプロジェクト学習に取り組んだ。地域産業の抱える幾多の課題について、コンソーシアム委員及び外部人材と連携を図りながら解決策を提案し、最終目標に向けた年次計画に沿ってプロジェクト学習に取り組んだ。コロナ禍での協働学習にはICT機器を活用し、オンラインによるリモートでの外部人材との連携等を実施した。年間計画の中で、学習の振り返りと改善に繋げるために、校内での中間発表会を実施した。生徒及び教職員、プロフェッショナル型コーディネーターによる評価を実施し、小さなPDCAサイクルを何回も回すことで学習の深化を図った。また、プロフェッショナル型コーディネーターによる学習支援により、ビジネスの観点を学習に取り入れることで、商品開発や付加価値の創出などを具体的に形にし、生徒がマーケットに挑戦できる資質の向上と起業家に必要な能力の育成に繋げた。

昨年度に引続き、授業の枠を越えた学習の場を提供するために「天拓Lab」を設置した。しかし、学校施設・設備の大規模な改装工事が施工されたため、活動場所に制限が掛かり、各自の学科及び活動場所での学習となった。

イ 職業観の育成

(ア) 地域の現状把握と新たな価値観の獲得を目的に、外部人材による各種講演等を実施した。講演等を通して、先端技術による産業の発展と地域が持つ伝統的文化に触れることで、知的財産の獲得と活用方法について学習した。

(イ) GAP研修やHACCP研修を通して、生産物及び加工品の品質管理や危機管理に対する目的や知識を学習し、職業倫理の醸成に繋げた。

(ウ) 課題研究型学習に付随して、調べ学習による情報収集や地域住民からの聞き取り調査及びアンケートなどにより、情報活用能力の向上に繋げた。

ウ 生徒の資質・能力の育成を効果的に進める評価システムの開発

(ア) コンソーシアム委員や地域住民、保護者などを対象とした外部評価、校内（生徒、教職員）を対象とした内部評価をアンケート形式で評価を実施した。

(イ) 授業の記録としてポートフォリオを活用し、学習者と評価者の学習の理解度の格差をなくし、生徒自身の振り返りの機会を増やすことができた。

○地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

ア 教科：「農業」

イ 科目：「農業と環境」、「総合実習」、「農業情報処理」、「食品製造」、「食品化学」、「野菜」、「果樹」、「草花」、「畜産」、「微生物利用」

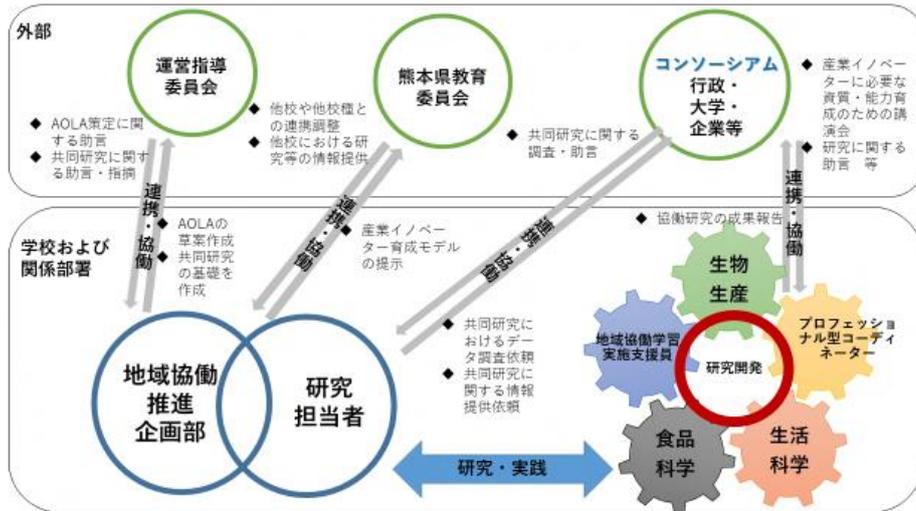
○地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

ア 第1学年において、科目「農業と環境」をベースとした課題研究型学習で、プロジェクト学習の手法について学習した。その手法を用いて、科目「総合実習」にてPDCAサイクルによる地域課題の探究的な学習に取り組んだ。各授業での学習資料を、科目「農業情報処理」で分析・まとめを実施した。また、科目「農業と環境」で失敗体験をした生徒は、科目「総合実習」で振り返りを実施した。原因と結果による因果関係について理解を深め、科目「農業情報処理」で調べ学習を実施し、改善点について科目「農業と環境」で実践することで課題解決に繋げる資質・能力を向上させた。

イ 第2学年において、科目「総合実習」で地域課題をテーマとしたプロジェクト学習に取り組んだ。教科の関係科目による専門的知識・技術の習得に加え、教科「地歴公民」による学校設定科目「天草学」において、地域社会の諸課題について解決策を思考する授業展開を実施し、プロジェクト学習の内容とリンクさせながら横断的な学習の実践に繋げた。また、授業の成果について、3学科合同による校内発表会を実施し、学びのPDCAサイクルを生徒自身が回せるプログラム作りを行った。この中で、普通教科の教職員が審査・評価を実施し、学習到達度の把握と、授業での育成目標を改善してもらう働きかけを行った。今後、普通教科との関連性を強め、言語活動等の育成に繋げるために教科間の連携を密にしていく。

ウ 第3学年において、科目「課題研究」で地域課題及び進路目標に沿った課題研究型学習を先行して実施した。科目「総合実習」での校外活動に加え、科目「農業情報処理」による調査・分析、発表資料の作成・まとめ等を行った。

○地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制



○学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

氏名	職名	担当教科等	役割
中村 洋介	校長	教科「農業」	統括
田畑 淳一	副校長	教科「農業」	統括補佐
泉 伸仁	教頭	教科「農業」	渉外・指導
松上 康子	事務長	事務室統括	経理・指導
貝瀬 史明	主任事務職員	本事業経理担当	経理
平木 慎二	教諭	農場長・教科「農業」	研究主任
藤井 隼人	教諭	生物生産科・教科「農業」	研究担当主査
住吉 真輔	教諭	食品科学科・教科「農業」	研究担当副主査
谷口 誠也	教諭	生物生産科主任・教科「農業」	研究担当
稲田 浩文	教諭	食品科学科主任・教科「農業」	研究担当
村松 美香	教諭	生活科学科主任・教科「家庭」	研究担当
免田 隆大	教諭	教務部・教科「理科」	研究担当
中本 美佳	教諭	教務主任・教科「家庭」	カリキュラム開発
徳永 守	教諭	生物生産科・教科「農業」	研究担当
森山 大士	教諭	生物生産科・教科「農業」	研究担当
酒見 博士	教諭	食品科学科・教科「農業」	研究担当
舟越 弓恵	教諭	食品科学科・教科「農業」	研究担当
福島 範彦	教諭	生活科学科・教科「農業」	研究担当
杉本 みつこ	教諭	生活科学科・教科「家庭」	研究支援
古閑 真弓	教諭	生活科学科・教科「家庭」	研究支援

○プロフェッショナル型コーディネーター、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

ア	プロフェッショナル型コーディネーターの位置付け 株式会社チーム天草代表取締役 西嶋隆明氏（会計年度任用職員として雇用）週2日程度高等学校で勤務（勤務実績：年間80日程度）
イ	地域協働学習実施支援員の位置付け 株式会社チーム天草代表取締役 西嶋隆明氏（プロフェッショナル型コーディネーターとの兼務）生徒の校外活動に同行して学習支援を実施した。（月1回程度）

○学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

ア	研究開発の進捗管理は地域協働推進企画部（校務分掌）で実施した。
イ	学校の教育目標に沿って、地域協働推進企画部を中心に全教職員で細かな役割分担を行い、教育活動における負担感の軽減に繋げた。
ウ	地域協働推進企画部会議（月4回）で、定期的な確認や成果の検証・評価等を実施し、運営委員会（月1回）、職員会議（月1回）、農業部会（月1回）、職員研修（学期1回）等を通じて課題収集や方向性の確認・共有等を行い改善に繋げた。また、教務部及びプロフェッショナル型コーディネーターとの協議により、授業全体の進捗状況について管理を行った。

○カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

ア コンソーシアム会議において、他地域及び他高等学校との実践事例などの検証を行った。
 イ コンソーシアム会議において、地域のニーズや社会の動向、学校の特色等について検討し、教育目標に沿った授業展開を協議した。
 ウ 生産及び加工等の専門的な分野に分かれ、授業展開及び地域・社会ニーズ等の情報交換を実施しながら、外部人材との新たな繋がりを持つに至った。
 エ 本校のカリキュラム編成による強みと弱みについて検証し、学年間での体系的・系統的な学習の推進及び教科横断的な学習の具体的な指針について指導・助言を行った。特に普通教科との関わりについて、各専門的な見地からの進言により生徒個人の課題に対する基礎学力・応用力などの育成方法について協議した。
 オ 授業実践に、専門的なコンソーシアム委員が直接関わり、地域の風土や文化等の内容を交えながら職業人としての資質・能力の向上を図った。

○運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

ア 運営指導委員会を経て、指摘事項及び指導項目に対する改善案をまとめ、全教職員間で共有し実践に繋げた。また、コンソーシアム委員へ周知し協働学習の見直し案等の協議を実施した。
 イ 本校の就農アドバイザーや地元農家、コンソーシアム委員、県内の教科研究部会等を経て、研究開発の課題点などを指摘・指導を受けて、地域の行政機関や大学等と連携を取りながら改善に繋げた。
 ウ ビジネスを主体とする起業家や農業経営者等の指導・助言の下、プロジェクト学習にマーケティングの手法を取り入れ、商品開発等に向けた学習を実践した。
 エ 運営指導委員会を経て、委員として指導・助言を頂いている大学の専門家と、評価の検証方法について連携をとり評価システムの開発に取り組んだ。

○類型毎の趣旨に応じた取組について

ア 天拓プロジェクトを通して、フィールドワーク等の学習から学校での学びと職業現場をリンクさせ、職業人と交流・連携することで職業観の育成に取り組んだ。
 イ ICT機器の活用や地域人材への聞き取り等から、地域の現状・課題について調査・分析を主体的に実施することで、地域課題の解決に向けたアイデアを自ら思考し、天拓プロジェクトに繋げることができた。
 ウ コンソーシアム委員を通して産業界との繋がりを強化することができた。外部人材が授業等に率先して参加し、専門的知識や技術について講義・実践を行った。
 エ 農業生産物の卸価格と消費価格について、スーパーマーケット等を訪問し調査を実施した。また、一般消費される生産物（店頭で並ぶ野菜・果実等）に限らず、加工を目的とした生産物にも着目し、天拓プロジェクトによる学習活動で生産技術の習得とマーケット間での商品価値について学習した。

○成果の普及方法・実績について

ア 学校ホームページにて情報公開（月1回程度）
 イ 校外に向けて実施した学習成果発表の機会（3回）
 （ア）県内の高等学校向けにSNSを利用して実施（1回）
 （イ）地域へ向けにSNSを利用して実施（1回）
 （ウ）県内外へ向けにSNSを利用して実施（1回）
 ウ 他地域及び他校と交流する機会（3回）
 （ア）三重県立南伊勢高等学校との協働研究による交流（2回）
 （イ）秋田県立金足農業高等学校との1年生のオンラインによる地域間交流（1回）
 エ 県内農業関係高校へ向けに実施した研究成果発表等（1回）
 熊本県高等学校教育研究会農業部会で研究開発成果発表
 オ メディアやマスコミ等の活用（3回）
 （ア）朝日新聞中部地方版へSDGs特集に掲載
 （イ）熊本日日新聞へ学習内容を掲載
 （ウ）日本農業新聞へ学習内容を掲載

8 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 目標の進捗状況

年度当初に計画した研究項目の実施実績については上記のとおりである。また、目標設定で設定した当初の目標数値と現在の進捗状況は以下のとおりである。

ア 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

成果目標項目	2020 実績	2021 目標値
地域に魅力を感じ、愛着を持つ生徒の割合	87%	80%
地域の新たな魅力を再発見した生徒の割合	73%	80%

地域の課題を発見し、解決に向けて意欲的に取り組むことができる生徒の割合	76%	80%
将来、地域のために貢献したいと考え、行動する生徒の割合	69%	80%
他者の話をしっかりと聞き、理解できる生徒の割合	64%	80%
自らの課題意識をプレゼンテーションし、伝えることができる生徒の割合	54%	80%
卒業後、学科の特性を生かした進学・就職の可能性	48%	50%
管内及び県内就職をする生徒の割合	29%	65%
天草拓心高校の研究内容における取組は本事業で目指す人材育成に効果的：事業に参画する地域住民の評価（4段階）	3.4	3.6
本事業の研究内容や取組について、評価できる：事業に参画する地域住民の評価（4段階）	3.6	3.6
本事業の研究内容や取組は、地域の活性化につながる：事業に参画する地域住民の評価（4段階）	3.5	3.6

イ 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

成果目標項目	2020 実績	2021 目標値
外部人材を招いての講話や交流学习(生徒対象)の実施回数	9回	20回
研究データやノウハウを提供した学校数(成果報告会を含む)	25校	30校
成果報告書を配布する（配布数）	700件	*2100件
県内・外への先進地視察研修へ行く生徒の数	46%	100%
ホームページ「天草未来日記」の更新回数	11回	*60回
年3回の授業デザイン会・振り返り会に参加する教員の割合	92%	100%

※2019年度～2021年度の総数

ウ 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

成果目標項目	2020 実績	2021 目標値
コンソーシアムの活動回数：年間6回（マザー・サークル2回、ローカル・サークル4回）	5回	6回
地域に出て、地域資源を活用しながら地域と協働して活動した回数	28回	*90回
学校を訪れる地域の方の人数	150人	2000人

※2019年度～2021年度の総数

(2) 研究の成果

ア 本構想において実現する成果目標に対する成果（アウトカム）

今年度は新型コロナウイルスの影響で学習活動に一定の制限が掛けられる中で、生徒の学習効果を高める取組に重点を置き、様々な取組を地域人材と一緒に工夫しながら実践してきた。天拓プロジェクトによる地域課題をテーマとした探究的学習を通して、地域の新たな魅力を発見する生徒や地域課題の中にある解決要因について模索する生徒の割合が上昇し、昨年度と比較して10%前後の向上が見られた。また、生徒自身が地域課題に触れ、自ら思考する機会が増加した。そのことから、周囲の大人と協議して答えを導き出す過程で、地域への愛着心が向上し、将来的に地域のために貢献したいと思う生徒の割合も同様に向上している。一方で、自らの課題意識をプレゼンテーションできる生徒は54%に留まり、目標には達していない。これは、グループ活動の中でリーダーシップが育成される生徒と、同調するだけの生徒との格差だと考えられる。次年度に向けて生徒個人がプレゼンテーションする機会を設け、自ら判断し表現することで資質・能力の育成を図っていく。

イ 地域人材を育成する高校及び地域としての活動指標（アウトプット）

今年度、新型コロナウイルスの影響で計画していた協働学習を中止する項目も幾つかあった。その代替として、コンソーシアム委員や近隣の地域人材の協力の下で、協働的学習の効果を高める取組を実施することができた。昨年度の協働する機会22回に対して、今年度は28回実施することができた。この数値には、リモートによる交流学习や来校での交流も含まれており、計画以上の効果を上げることができた。これらは、コンソーシアムとしての機能を強化する取組の一貫として、コンソーシアム委員の呼びかけや紹介等を通じて、新たな地域人材との出会いや専門的機関との繋がりを持つに至った成果である。本事業終了後のコンソーシアム体制の在り方について、コンソーシアム会議を通じて共通理解することができたことは、今後の学校教育改革に大きな布石となると期待している。

ウ 進路と学びの関連性について

今年度の取組を経て、卒業後に学科の特性を生かした進学・就職を希望する生徒の割合は48%となった。昨年度から6ポイント上昇しているとはいえ、地域の将来像を見据えた進路選択率には至っていないと推察される。また、管内及び県内就職をする生徒の割合は、昨年度を下回り29%であった。新型コロナウイルスの影響で県内の就職状況も下火となり、今回のような結果となった。しかし、将来的に地域へUターンする予定の生徒も少なくはない。天草管外及び県外で専門的な知識・技術を習得し、地域で起業や就職等を考えている生徒がいることは、本事業の成果として本事業終了後も継続してサポートしていきたい。

(3) 研究の評価

ア 今年度の運営指導委員会を経て、様々な評価をいただいた。課題研究型学習「天拓プロジェクト」の実践を通して、学習状況や協働体制、学習発表の内容等における生徒の変容について好評をいただいた。

特に、地域課題の解決に向けての取組の中で、生徒自身がアイデアや改善点等を提案し実践することでPDC Aサイクルを回すことができていることが高評価に繋がった。また、2030年の社会に向けた学校教育の在り方について、誰にも予測不可能な社会の中で、地域としてどのような社会を実現していくのかをコンソーシアムを始めとする地域人材と共有し、持続可能な地域を創造できる人材の育成を目指すべきであると助言をいただいた。

課題研究型学習及び職業教育を実践的に学んだ生徒にとって、「地域」を客観的に捉えるまでには至っていないのが現状である。産業イノベーション人材として、地域を外の視点から捉える客観性の必要性を学習の中で自覚させ、何が必要でどのような地域像が理想なのかを生徒自身に思考させる教育活動を実践していかなければならない。

イ 教科横断的な学習を実現するためのカリキュラム開発に取り組んできたが、普通教科との連携が不十分であり、生徒の言語活動を高めるには至っていない。現在、観点別評価による学習評価の準備に全教職員で取り組んでいる。この段階で、教科間での横断的な学習プログラムを構築できるように次年度は取組まなければならない。

ウ 前述したように、学習の中で生徒自身が思考し判断する活動は増加傾向にある。しかし、生徒間の格差は広がりつつあるのが現状である。マザー・サークル委員から、「生徒の自立した活動を促すために、生徒が自分で思考したものを大人が受け取るような取組を充実させてほしい」との助言があった。生徒間の格差をなくし、生徒それぞれが自ら考え判断し表現する学習の機会を設定するなど、学習プログラムの改善が急務である。

<添付資料>目標設定シート

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 生徒による学習成果の具現化

今年度の取組を踏まえ、次年度は「学校農業クラブ」プロジェクト発表部門及び意見発表部門、農業鑑定等の競技会に挑戦し、好成績を目指しつつ学習の成果を広めていく。また、天草宝島起業塾を始めとするビジネスプランの作成に関する取組を深化させ、ビジネスプランコンテスト及び商品開発等における各種コンテスト等への出品を実施する。

(2) 専門的知識・技術の向上

これまでの学びの「定着」を、ペーパーテストによる結果だけでなく、ポートフォリオによる授業の振り返りを自らできる学習プログラムとして形成していく。課題を抱える生徒に対しては、学科教職員と普通教科の授業担当者も交えながら面談等を繰り返し実施していく。これまで、個別の目標は設定してきたが、そのプロセスに関する評価項目を見直し、実践的な知識・技術の定着を目指していく。また、メモを取る習慣付けを行い、記録による確認と聞き書き能力の育成に取り組む。

(3) 「自ら考えて、判断する」授業展開（主体性・思考力・判断力の強化）

天拓プロジェクトによる地域課題研究において、生徒によるミーティングやディベートを実施していく。生徒自身がファシリテーションできる環境を整えていく。そのため、ミーティングのルールや結果を出すための手法等について、外部のプロフェッショナルによる指導等を実施する。また、地域課題に関するシーズ集や企業等の経営事例等を教材とし、テキストマイニングによる思考力・判断力の育成に取り組む。

(4) メタ認知能力の育成

授業改革を進める中で、普段の授業で生徒自身が振り返りを実施できるようにしていく。ポートフォリオや記録ノート等を活かし、自己の学びを振り返りながら、自己分析に取り組んでいく。また、自己分析に関するアンケートや記録用紙を工夫し、第三者からも認知できるようにしていく。

(5) 指導する教職員のスキルアップ

生徒の学習に伴い、コーディネーターの役割は非常に大きい。地域の人材や他業種のプロフェッショナル人材と新たに出会う機会が多くあり、学校現場に新たな価値観が生まれている。教職員自身が外部人材と密に繋がり、民間企業等の見方・考え方や社会情勢等の収集を体験的に行うことで、育成する人材像の具現化に加え、生徒のキャリアサポートにも大きな意味を持つと考えられる。

(6) 評価システムの完成

次年度に向けて教務部と連携し、観点別評価の研修及び試行を進めている。ペーパーテストによる知識の把握が主流となってきたこれまでの評価方法を改善し、ペーパーテストの内容を観点別に整理する取組を行っていく。生徒の知識の定着を図るためには、ポートフォリオと定期考査の結果をリンクさせ面談等を行いながら生徒の振り返りを大切にしていきたい。また、生徒の進路目標に沿ってループブックによる目標設定を明確にし、最終的に「何ができるようになりたいか」を生徒と教職員で共有しながら、学習による効果の検証と分析に取り組んでいきたい。